

週刊 **くらしの**

BOX

抜き取って
お読み下さい

プロレーサーへの登竜門と言われるフォーミュラニッポンFJ1600。諏訪市中洲中金子の会社員、笠江友和さん(27)は、同クラスの東北シリーズで昨年、初参戦でありながら総合3位という好成績を挙げました。子どものころに抱いた「レーサーになりたい」という夢の実現に向け、生活のほとんどすべてをかけて、日夜努力している笠江さん。夢のゴールに向け、アクセルを踏み続けるひたむきな人生を取材しました。

夢



アクセル全開



雨との戦いとなった今年の第2戦、マシンでスタートを待つ笠江さん



ピットでスタッフとくつろぐ笠江さん



撮影:白鳥 博樹(諏訪市) 編集:笠江さん(市)

笠江さんは宮崎県延岡市の出身。自動車整備士をしていた父親の影響で、子どものころから自動車に興味を持ちはじめ、中学時代にテレビでフォーミュラレースの最高峰「F1」を見たことが引き金となり、「レーサーになりたい」と思い始めました。しかし当時は、近くにサーキットもなくレースとはかけ離れた環境。高校生になって「レーシングドライバーになりたい」と両親に打ち明けましたが、理解を得ることはできなかったといいます。

アルバイトなどで資金集め

それでもレーサーになりたいという夢は捨てきれず、大学も自動車工学科を選択。自動車に対する知識を深めつつ、アルバイトをしながらレースに挑戦するための資金を貯え続けました。大学卒業後、就職して2年周りが経過し、ようやくレースに挑戦するための「元手」が集まったころ、インターネットでFJ1600クラス最強のレーシングチーム「ZAP SPEED」で、レーシングドライバーのオーディションが開催されることを知ります。オーデ

ィションには、笠江さんと同じくレーサーを目指す50人を超える若者が集まりましたが、笠江さんは幸い、初めて乗るフォーミュラカーに手こずりながらも、最終選考を経てたった3人だけが残ったドライバーの1人に選ばれます。長い間、貯えていたエネルギーを一気に発散させるように、そこから笠江さんの快進撃が始まります。

デビュー戦でいきなり4位入賞

1年間練習走行を重ねたあと、宮崎県の「スポーツランドSUGO」で開かれたFJ1600東北シリーズデビュー戦で、いきなり予選2位、決勝4位の好成績。2戦目のもてぎシリーズでは、出場31台中、予選トップで早くも憧れのポールポジションを獲得しました。東北シリーズ第4戦では、ポールポジションから決勝レースでも1位を守り続けて初優勝。全5戦で争う同シリーズでは、最終戦までチャンピオンレースに残り、初参戦で総合3位という快挙を成し遂げました。

FJ1600挑戦2年目の今年も、栃木県のサーキット「ツインリンク

もてぎ」で行われているもてぎシリーズに参戦し、4月の初戦で2位、5月の第2戦は雨のセッティングに苦しめられて8位に終わったものの総合優勝を狙える位置をキープ。カーレースは、4つのタイヤを大きく張り出したF1を頂点とするカートタイプのフォーミュラカーと、市販車に近いツーリングカーに分類されますが、細かい規格により車体性能の差が少ないフォーミュラカーの場合、ドライバーの「腕」の差が成績にそのまま直結します。

FJ1600の上にはF4やF3があり、その上には国内最高峰のフォーミュラニッポン、さらにその上にはF1が控えます。笠江さんは「今年がFJ1600最後の年」と位置づけ、F4へのステップアップを目指しています。一般にプロレーサーと呼ばれるのはF3以上。「年節的にもF1は難しいと思うから、国内最高のフォーミュラニッポンを目標にしたい」と話しています。

郷里にカート場つくりたい

プロレーサーへ向かう夢に理解を示してくれた人の誘いで、昨年

から諏訪市に居を移した笠江さん。路面と尻の間がたった4センチという驚異的な接地性の高さから生み出される、強力な重力抵抗に対抗するため、日ごろからランニングや筋肉トレーニングを欠かさず、F4、F3へのステップアップに備え、給与のほとんどをレースに注ぎ込む生活。レースとかけ離れた環境で苦労した自身の体験を思っただけで、諏訪市に似ているという郷土の延岡市に、レーサーを目指す子どもたちのために「カート場をつくりたい」と夢の続きを語っていました。

夢追いかけるパートナー募集中

なお、笠江さんは、パートナーとしてプロレーサーへの夢を共に目指すスポンサーを募集中。モータースポーツと笠江さんの活動を応援したい希望者は、笠江さん(電0266-53-3584)まで問い合わせを。またホームページでも自身の活動を紹介している。アドレスは <http://www.h6.dion.ne.jp/~kasa>